

市政記者クラブ 様

令和7年9月11日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）楫屋、近藤 電話：972-2631
（結核）楫屋、竹田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和7年8月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 8月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年8月	令和6年8月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	25件	30件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	11件	11件
◆四類感染症 ・日本紅斑熱 ・レジオネラ症	1件 3件	1件 4件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・破傷風 ・梅毒 ・百日咳	1件 4件 1件 1件 3件 1件 2件 1件 1件 48件 183件	2件 6件 2件 1件 2件 1件 3件 0件 0件 38件 4件
◆五類感染症（定点把握疾病：第32週～第35週（8月4日～8月31日分）） ・報告数の多い疾病は①新型コロナウイルス感染症（1,837件：前月比1.86倍）、 ②インフルエンザ（45件：前月比1.32倍）となっています。 ・基幹定点からの報告数の多い疾病は、新型コロナウイルス感染症による入院患者（79件：前月比1.68倍）		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー脳炎を除く。

2 トピックス

《結核 ― 9月24日から9月30日は結核・呼吸器感染症予防週間です―》

「結核なんて過去の病気」と思っていませんか？医療や生活水準の向上によって結核は薬を飲めば治る時代になりましたが、今でも全国で年間 10,051 人の新しい患者が発生し、1,461 人が命を落としており、日本の重大な感染症の 1 つです。

なかでも名古屋市は、政令指定都市の中で 4 番目に結核罹患率の高い状況にあります。令和 6 年に名古屋市で新たに結核と診断された患者は 263 人で、その内 70 歳以上の方が 6 割以上を占めていますが、69 歳以下の働く世代も 3 割以上を占めており、年齢問わず注意が必要です。

令和 6 年 名古屋市の結核

【患者数及び罹患率】

	全国	名古屋市
新登録患者数 (新たに発生した患者数)	10,051 人	263 人
罹患率 (人口 10 万人あたりの新登録患者数)	8.1	11.3

【政令指定都市結核罹患率上位 5 市】

- 大阪市 17.4
- 堺市 14.9
- 北九州市 12.4
- **名古屋市 11.3**
- 京都市・福岡市 10.6

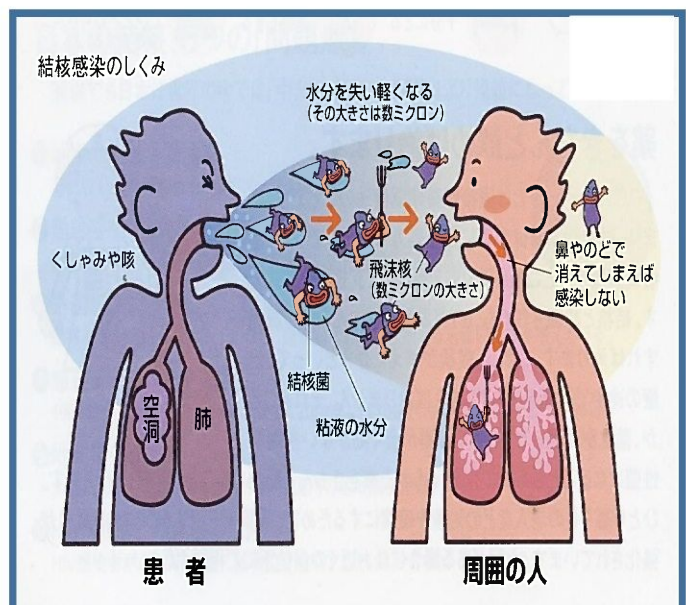
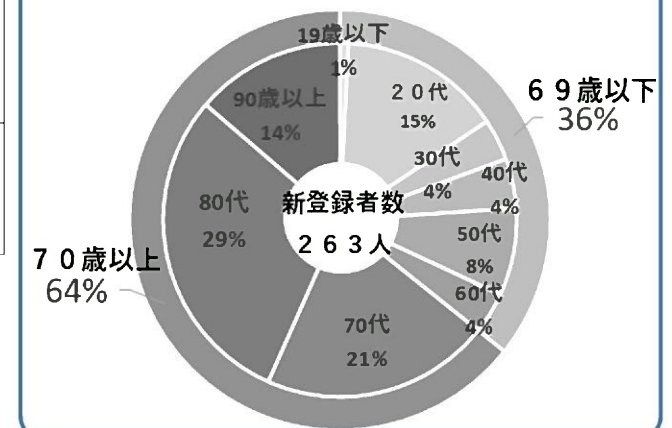
結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。結核菌の混ざった「しぶき」が咳やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。

症状はせき、たん、倦怠感、微熱等と風邪とよく似ていますが、2 週間以上続くことが特徴です。高齢者の場合、症状が現れにくいこともあります。

昔とは違い、結核になってもきちんと服薬治療をすれば、ほとんどの人が治ります。しかし、症状を放置して悪化してしまうと、人にうつしてしまったり、入院が必要となってしまうので、早く見つけることが大事です。

【名古屋市年齢別患者割合】

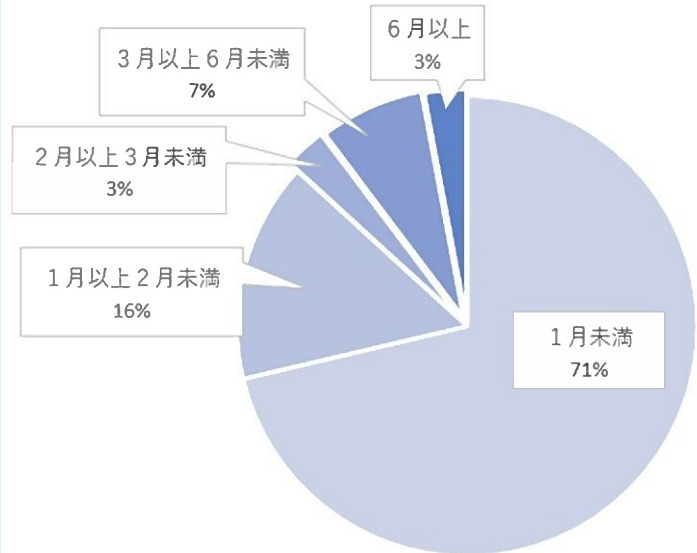
令和 6 年名古屋市の結核新規登録患者



令和 6 年に新たに結核と診断された名古屋市の患者について、症状が出てから受診までの期間が 1 か月以上あった方の割合は約 3 割あり、そのうちの約半数は、症状が出てから受診まで2か月以上を要していました。

結核は市販薬では治らない病気です。複数の薬を 6 か月以上毎日服用する必要があります。風邪症状が長引く場合は、早めに呼吸器を専門とする医療機関を受診し、風邪症状が長引いていることを医師に伝えましょう。

令和 6 年 新登録有症状肺結核患者 受診までの期間割合



結核をまん延させないためのポイント

【結核の主な症状】

結核の症状は風邪の症状に似ています。以下の症状が **2 週間以上続く** 場合は、結核を疑い、**呼吸器科を専門とする医療機関**を受診しましょう。

- 咳（せき）や痰（たん）
- 体がだるく、活力が出ないなどの倦怠感
- 体重が減る
- 微熱

【結核の予防】

結核は、免疫力の低下などが発症の引き金となるので、普段から健康的な生活を心がけて免疫力を高めておきましょう。

- 睡眠を十分にとる
- 適度に運動をする
- バランスのとれた食事をする
- タバコを吸わない
- 定期的な健診

【健康診断の受診】

年に 1 回は、**胸部エックス線検査**等の健康診断を受けましょう。本市では、勤務先等で検査を受診する機会のない 40 歳以上の方に対し、委託医療機関において**肺がん・結核検診**を行っております。詳細は、市公式ウェブサイト「**肺がん・結核検診**」をご参照ください。

(<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000008969.html>)



名古屋市肺がん・結核検診

呼吸器感染症について

新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、RS ウイルス感染症、細菌性肺炎など、病原体（細菌やウイルス、寄生虫など）への感染により、かぜや咽頭炎、気管支炎、肺炎などを引き起こす感染症です。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる病原体によって感染（飛沫感染）する場合や、病原体が付着した手で口や鼻に触れることによって感染（接触感染）すると考えられています。

例年、秋冬に特に流行するため、普段の生活や海外渡航時などにおいて、感染予防に一層の注意が必要です。

呼吸器感染症を予防するためには

呼吸器感染症対策の基本は、換気や手洗い、手指消毒を行うとともに、効果的な場面でのマスクの着用を含む咳エチケットが大切です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに手を洗いましょう。

～『咳エチケット』とは～

◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけましょう。

◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。

◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

名古屋市内における感染症の流行状況等の情報は、本市ウェブサイトに掲載していますので、ご参照ください。

URL : <https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

厚生労働省では、毎年 9 月 24 日～30 日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核及び呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

3 病原体分離情報（令和 7 年 8 月分）

1. 令和 7 年 6 月 30 日発症、市内医療機関を受診し、不明熱と診断された、住所不明、14 歳、女兒の検体（急性期血液：6 月 18 日採取）から、伝染性単核球症の原因ウイルスとして有名であり、感染後潜伏感染し免疫機能等に影響を及ぼす可能性が示唆されているエプスタイン・バーン・ウイルス（EBV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 7 年 7 月 3 日発症、市内医療機関を受診し、不明熱と診断された、住所不明、2 歳、男児の検体（結膜拭い液：7 月 8 日採取）から、かぜの代表的なウイルスとして知られ上気道炎症状を呈するヒトラノウイルス（HRV 型別不明）を遺伝子検査法により検出・同定しました。同時に発疹等を伴うエンテロウイルス（EV 型別不明）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 7 年 7 月 2 日発症、市内医療機関を受診し、流行性耳下腺炎と診断された、南区在住、7 歳、男児の検体（唾液：7 月 3 日採取）から、上気道炎症状を呈することが知られているヒトラノウイルス A 群（HRV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、小児の突発性発疹の原因となるヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。同時に伝染性単核球症の原因ウイルスとして有名であり、感染後潜伏感染し免疫機能等に影響を及ぼす可能性が示唆されているエプスタイン・バーン・ウイルス（EBV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 発症日不明、市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、7 歳、男児の検体（結膜拭い液：7 月 9 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られているD 種アデノウイルスの一つであるアデノウイルス 54 型（AdV54）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 発症日不明、市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、6 歳、男児の検体（結膜拭い液：7 月 10 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られているD 種アデノウイルスの一つであるアデノウイルス 54 型（AdV54）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和 7 年 7 月 15 日発症、市内医療機関を受診し、新生児無呼吸発作と

6. 令和7年7月15日発症、市内医療機関を受診し、新生児無呼吸発作と診断された守山区在住、0歳0ヶ月、男児の検体（咽頭拭い液・便・尿：いずれも7月15日採取）から、夏かぜ症状や発疹症を呈し、重症例ではさらには無菌性髄膜炎を起こすことが知られているエコーウイルス 18 型（Echo-18）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、咽頭拭い液検体からは、アデノウイルス型未定（AdV-NT）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
7. 令和7年7月14日発症、市内医療機関を受診し、無菌性髄膜炎と診断された西区在住、0歳0ヶ月、男児の検体（髄液・咽頭拭い液・便・血液：いずれも7月14日採取）から、小児の呼吸器系疾患や感染性胃腸炎などを引き起こし、まれに麻痺や無菌性髄膜炎を起こすことが知られているヒトパレコウイルス 5 型（HPeV-5）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、髄液・咽頭拭い液検体からは、細胞培養法によりヒトパレコウイルス 5 型（HPeV-5）を分離・同定しました。
8. 令和7年7月21日発症、市内医療機関を受診し、無呼吸発作と診断された、市外在住、0歳0ヶ月、女児の検体（咽頭拭い液・尿・便：いずれも7月21日採取）から、夏かぜ症状や発疹症を呈し、重症例ではさらには無菌性髄膜炎を起こすことが知られているエコーウイルス 18 型（Echo-18）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、便検体からは、細胞培養法によりエコーウイルス 18 型（Echo-18）を分離・同定しました。
9. 令和7年7月21日発症、市内医療機関を受診し、無呼吸発作と診断された、市外在住、0歳0ヶ月、女児の検体（咽頭拭い液・尿・便：いずれも7月21日採取）から、夏かぜ症状や発疹症を呈し、重症例ではさらには無菌性髄膜炎を起こすことが知られているエコーウイルス 18 型（Echo-18）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、咽頭拭い液・尿・便検体からは、細胞培養法によりエコーウイルス 18 型（Echo-18）を分離・同定しました。
10. 令和7年7月22日発症、市内医療機関を受診し、不明発疹症と診断された、天白区在住、0歳0ヶ月、男児の検体（咽頭拭い液：7月22日採取）から、夏かぜ症状や発疹症を呈し、重症例ではさらには無菌性髄膜炎を起こすことが知られているエコーウイルス 18 型（Echo-18）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、咽頭拭い液検体から細胞培養法に

よりエコーウイルス 18 型 (Echo-18) を分離・同定しました。

11. 令和 7 年 7 月 29 日発症、市内医療機関を受診し、熱性けいれんと診断された緑区在住、2 歳、女児の検体（咽頭拭い液：7 月 29 日採取）から、小児に突発性発疹の症状を呈することが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型 (HHV-7) を遺伝子検査法により検出・同定しました。

12. 令和 7 年 7 月 28 日発症、市内医療機関を受診し、腸重積と診断された昭和区在住、2 歳、女児の検体（便：7 月 29 日採取）から、小児に突発性発疹の症状を呈することが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型 (HHV-7) を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 急性呼吸器感染症サーベイランス病原体情報

令和 7 年 4 月 7 日から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスを実施しています。

2025/7/30～2025/8/21 受付分（被検者 計 41 名）

検出されたウイルス	合計
AdV	4
HRV/EV	20
HPIV3	2
HPIV4	1
RSV-A	2
RSV-B	2
SARS-CoV-2	5
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2
計	38

* 同一患者での重複感染例あり

AdV：アデノウイルス，HRV/EV：ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス，HPIV：ヒトパライソフルエンザウイルス，RSV：RSウイルス，SARS-CoV-2：サーズコロナウイルス 2 型，*Mycoplasma pneumoniae*：肺炎マイコプラズマ

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者から分離した百日咳菌の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第32週～第35週（8月4日～8月31日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフルエンザ (インフルエンザ及び ザル感冒症を除く)	新型コロナウイルス感 染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、肺炎球菌 を原因として特定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるもの に限る)	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※ による入院患者		
千種	4	86	11	1	7	22	7	8	12	3	6	-	301	0	5								473	
東	2	54	-	1	1	-	3	1	10	3	5	-	606										686	
北	1	123	2	-	2	12	-	-	5	-	-	-	631	0	0	0	0	0	0	0	0	12	788	
西	3	130	1	1	7	10	1	-	38	6	62	1	1,790	0	2								2,052	
中村	3	148	10	-	5	30	-	-	3	-	-	-	392	0	1								592	
中	7	57	-	-	-	30	-	-	2	-	-	-	501										597	
昭和	2	125	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	109	0	1	0	0	7	0	0	0	34	289	
瑞穂	-	81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	0	3								125	
熱田	-	34	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	128	0	3								166	
中川	5	252	9	21	15	36	-	2	34	1	36	-	974			0	0	14	0	0	0	33	1,432	
港	-	61	-	-	5	15	-	-	3	-	-	-	179										263	
南	6	244	4	2	-	24	-	2	3	3	1	-	1,217	0	2								1,508	
守山	1	131	-	4	1	35	-	4	21	1	-	-	670										868	
緑	7	137	4	-	5	72	-	2	42	3	6	-	677	0	1								956	
名東	4	142	2	-	33	25	1	6	10	-	13	-	935	0	2								1,173	
天白	-	32	6	2	1	7	-	2	13	4	1	-	288	0	2								358	
合計	45	1,837	50	32	82	329	12	27	196	24	130	1	9,439	0	22	0	0	21	0	0	0	79	12,326	
前月	34	985	47	73	156	544	26	38	340	34	191	6	13,722	0	28	0	2	28	0	1	3	47	16,305	
前月比	1.32	1.86	1.06	0.44	0.53	0.60	0.46	0.71	0.58	0.71	0.68	0.17	0.69	-	0.79	-	0.00	0.75	-	0.00	0.00	1.68	0.76	
昨年同月	138	3,673	129	59	297	402	38	2,043	10	31	97	8	-	0	10	2	1	58	0	3	1	188	7,188	

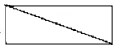
* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増えました。（4月6日までは70定点、4月7日からは50定点）

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 8月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染症 器 クラ ミ ジ ア	ウ性 イル ス 感 染 症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	感 染 症 黄 メ チ ブ シ ド ウ 球 耐 菌 性	肺 炎 ペ ニ シ リ ン 感 染 症 耐 性	緑 膿 菌 感 染 症 耐 性	
千種	1	0	0	3				4
東								
北	14	10	7	10	2	0	0	43
西	2	2	0	0				4
中村	3	1	0	2				6
中	23	44	20	8				95
昭和	12	4	3	4	5	0	0	28
瑞穂	1	1	0	0				2
熱田								
中川	9	10	4	2	4	0	0	29
港								
南	2	0	0	0				2
守山	0	3	0	0				3
緑	13	0	0	2				15
名東	1	0	0	0				1
天白	6	1	3	2				12
合計	87	76	37	33	11	0	0	244
前月	116	81	47	51	15	0	0	310
前月比	0.75	0.94	0.79	0.65	0.73	—	—	0.79
昨年同月	134	70	41	68	14	0	0	327

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

8月分患者報告数	
週報分	12,326
月報分	244
合 計	12,570

令和7年 8 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 8 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	痘そう	－	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－
二類感染症	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H5N1)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H7N9)	－	－	－	－
三類感染症	コレラ	－	－	－	－
	細菌性赤痢	－	－	－	－
	腸管出血性大腸菌感染症	11 (0)	45 (11)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	－	－	－	－
	パラチフス	－	－	1	2 (1)
	合 計	11 (0)	45 (11)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 8 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
O157	9	30 (3)	8 (6)	48 (6)
O26	－	2	5 (3)	4
O103	－	3 (3)	5 (1)	－
O111	－	2 (1)	2	－
O165	－	－	1	－
その他	2	4 (1)	2 (1)	1 (1)
型 不 明	－	4 (3)	6 (4)	9 (6)
合 計	11 (0)	45 (11)	29 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：27 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 8 月 3 1 日時点）